

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2012年 10月 10日

派遣者氏名（専門分野）	多賀 良寛 (東洋史学)
-------------	-----------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	ベトナム阮朝貨幣流通史の研究
-------	----------------

派遣期間

2012年9月9日 ～ 2012年9月19日

訪問研究機関	国	都市	訪問機関	受入研究者
	台湾	台北	中央研究院	
	台湾	台北	故宮博物院	

派遣先で実施した研究内容

派遣者は本プログラムによる台湾滞在中に、19世紀中国におけるベトナム銭の流通および18世紀ベトナムにおける華人労働者の動向に関連する史料調査を行った。主な調査対象は、上記の諸機関が所蔵する清朝の檔案史料である。

檔案とは中国の明清時代に作成された官庁文書の総称であり、皇帝が臣下に対して出した上諭や、地方官が皇帝に向けて送った上奏などが代表的である。檔案史料のもつ史料価値については早くから注目が集まっていたものの、中国大陸や台湾でその全面的な公開が進んだのは比較的最近のことであり、新たにアクセス可能になった大量の檔案は中国史研究の動向を大きく変えることとなった。また檔案には中央アジアや東南アジアといった中国以外の地域に関する情報も大量に含まれており、周辺地域を専門にする研究者にとっても欠かせない史料となりつつある。

今回訪問した台湾では、故宮博物院や中央研究院が軍機処檔案や内閣大庫の題本を中心に大量の檔案史料を所蔵しており、檔案のコレクションとして北京の第一歴史檔案館と双壁をなしている。故宮博物院や中央研究院はこれまで『宮中檔●●朝奏摺』や『明清史料』などのシリーズで所蔵する檔案史料の刊行を進めてきたが、史料の母体数が膨大であるため、現在にいたるもすべての史料が公刊されているわけではない。そこで今回の訪問では、中央研究院の郭廷以図書館と傅斯年図書館および故宮博物院の図書文献館が所蔵する檔案史料のうち、未公刊史料を中心に文献調査を行った。

近代史研究所に付属する郭廷以図書館では、宮中朱批奏摺・財政貨幣金融類を調査した。この史料は中央研究院が北京の第一歴史檔案館から購入したマイクロフィルムを紙媒体で製本したもので、清朝の貨幣政策や地方官による各地の貨幣流通状況に関する報告など、清朝貨幣史の貴重な情報が多数含まれている。派遣者は当該史料の道光・咸豊期部分を通覧し、関連記事の複写を行った。また郭廷以図書館ではCNKI等のサービスを通して中国大陸の雑誌論文および学位論文をフリーでダウンロードできたため、日本では入手しにくい学位論文を中心に先行研究を収集した。

中央研究院歴史語言研究所付属の傅斯年図書館では、内閣大庫の檔案史料および館蔵書籍の調査を行った。内閣大庫の史料は一部が『明清史料』としてすでに出版されているため、今回は未出版で現地でしか聞

覧できない案件に絞って調査を行った。檔案以外の館蔵史料では、徐廷旭の『越南輯略』や『欽定安南紀略』などを閲覧することができた。いずれも日本では所蔵機関が極めて限定されており、閲覧困難な文献である。前者は19世紀末に執筆・出版されたものだが、貴重書につきコピーをとることができなかったため、重要だと思われる箇所を筆写した。後者は乾隆末年に行われたベトナム出兵に関連する記事を集めたものであり、非常に大部な書物である。当該史料には清朝と在ベトナム華人労働者の交渉過程が記録されており、通覧した上で関連部分の複写を行った。

故宮博物院で調査を行ったのは、軍機処檔案の録副と『宮中檔』の道光・咸豊期である。軍機処檔案はすでにデジタル化されており、館内のパソコンから文書の画像ファイルを閲覧することができる。今回は「安南」や「越南」、「夷銭」といったキーワードで検索を行い、該当した史料をプリントアウトした。故宮博物院が所蔵する軍機処檔には乾隆末年のベトナム出兵に関連する史料が大量に含まれており、貨幣や鉞山開発以外のトピックについても、多くの貴重な史料を収集することができた。特に重要な成果は、清朝の官憲がベトナム在住の華人労働者に対して行った訊問内容を記録した檔案を入手できたことである。この檔案にはタイソン反乱に対する華人労働者の認識や、当時の北部ベトナムにおける鉞山開発の実情が記されており、今後研究を進める上で非常に有用な史料である。『宮中檔』の道光・咸豊期部分は出版されていないため、故宮博物院内でしか閲覧することができない。幸い当該史料は開架されており自由に閲覧・コピーすることができた。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

派遣に先立って作成した調査計画では、19世紀中国におけるベトナム銭の流通をメインテーマに据え、故宮博物院に所蔵されている軍機処檔および宮中檔の調査を第一目標とした。このテーマについては、故宮博物院の所蔵史料に加え、派遣前には予定していなかった 郭廷以図書館でも檔案史料の調査を行うことができた。『上諭檔』など派遣者が従来利用してきた史料では、なぜ広東や福建でベトナム銭が受け入れられたのかその理由が不明確であったが、今回調査した宮中朱批奏摺の記述によれば、当時民間では黎朝やタイソンの銭をベトナム銭だと気付かず、中国の古銭と思い込んで使用していたことが明らかになった。

故宮博物院の軍機処檔はベトナム関連の記事を多数含むが、その中でも乾隆後期の史料が最も充実している。そこで今回の調査ではベトナム銭関連の調査と並行して、18世紀ベトナムにおける鉞山労働者の動向についても調査を行い、貴重な史料を収集することができた。とりわけ大きな成果といえるのが、「安南廠民供詞」と題された軍機処檔案を入手できたことである。これは清朝の官憲が江潮(朝)英というベトナム在住の華人労働者に対して行った訊問の記録であり、史料自体には年代が欠けているものの、『欽定安南紀略』との照合によって、乾隆54年2月ごろのものだと推測される。北部ベトナムの鉞山開発は乾隆40年代に華人労働者の暴動によって頓挫し、その後は停滞したとの認識が一般的であるが、この史料にはその後も銀山を中心に活発な開発が続行されていたことが記されており、先行研究を塗り替える新たな発見につながる可能性を秘めている。

派遣後の研究発表の予定

東南アジア学会・海域アジア史研究会・貨幣史研究会などで関連発表を行う予定である。